

敵軍状況ノ概要(當師團ニ直接關係ノモノ)

十二月一日迄ノ状況

(1) 飛行機ノ偵察ニ依レハ敵ノ大部隊ハ南京―蕪湖―寧國道ヲ鐵道及自動車ニ依リ又一部ノ敵ハ孝豊(廣徳東南)約三十五料ノ附近及廣徳南方地區ヲ南下シツツアリ

右ノ事實ハ上海附近ヨリ敗退セル敵ヲ整理シ先ツ蘭溪及徽州ニ集結シアルヲ裏書スルモノニシテ別ニ軍事委員會及軍後方機關ヲ既ニ漢口及長沙ニ後退セシメタル情報モアリ將來逐次南昌ヲ經テ長沙附近及福建地方ニ後退スルモノト判断セララル

(2) 諜者報ニ依レハ杭州附近ニアリシ劉建緒軍ノ大部ハ既ニ湖南ニ移レルモノノ如ク現ニ杭州附近ニアルハ張發奎ノ五箇師ニシテ其ノ陣地ハ臨平徳清武康莫干山ノ線ナルモノノ如シ

2. 十二月二日迄ノ状況

(1) 飛行機ノ偵察ニ依レハ丸星山(滎陽西北約三十五料)

附近ニハ陣地アリ（南京要塞ノ前進陣地ノ線）  
 又午後ニ時頃常鎮西方地區ヨリ句容及溧水方向ニ敵部  
 隊退却中ナルヲ見ル  
 四 溧水東南方高地線ハ瓦屋山附近ニ若干ノ工事アル他大  
 ナル工事ヲ見ス又溧水南方約三料ノ高地ニハ之ヲ掩護  
 スル如ク東西ノ高地線アリ  
 四 南京ノ守備軍ハ約三万五千ニシテ南京ノ死守地棄テ就  
 テハ相當ノ議論アリシカ如シ  
 四 蔣介石ハ杭州方面ノ劉建緒軍ニ湖州又ハ南潯鎮方面ニ  
 對スル攻撃ヲ督促セルカ如シ  
 三 十二月四日情報記録第二十二附録ノ摘要  
 國民政府南京ニ首都設定以來逐次其防禦工事ヲ強化セ  
 ルモノナルモ尚未タ其工事ヲ完成スルニ至ラス  
 目下完成セルモノハ南京城周圍ノ直接防禦及對空施設  
 ニシテ本防禦線ハ殆ト野戰築城ノ程度ニ留リアリ

0038

第百十四師團狀況ノ概要

奥支隊ハ十一月一日午後ニ時戴埠鎮ニ進出セリ徐含鎮ノ  
 漂陽道上橋梁十一ヶ所ハ敵ノ爲焼却セラレ前進意ノ如ク  
 ナラサルモ師團ハ逐次兵カヲ前方ニ集結シ爾後ノ前進ヲ  
 容易ナラシメタリ  
 秋山旅團(第百ニ聯隊第ニ大隊及歩兵第六十六聯隊第五甲  
 隊欠)野砲兵第百ニ聯隊(第ニ大隊及未到着部隊ヲ)  
 野戰重砲兵第十回聯隊(第一大隊及聯隊別半分欠)及第  
 三第回野戰病院ハ秋山旅團長ノ區處ヲ以テ十一月二日徐  
 含鎮ニ向ヒ前進セシメ奥支隊ハ漂陽占領後南渡鎮ニ向ヒ  
 前進ヲ準備セシム  
 十二月二日第六師團ハ長興一廣徳一定埠一洪藍埠道ヲ漂  
 水西方地區ニ第十八師團ハ廣徳一十字輔一建平一洪藍埠  
 道ヲ小丹陽鎮附近ニ進出シ共ニ南京ニ向フ追撃ヲ準備ス  
 師團ハ魁ヲ南京城頭ニ日章旗ヲ掲クル目的ヲ以テ一意  
 追撃ヲ續行スルニ決シ奥支隊ヲシテ漂水北方地區ニ向ヒ  
 秋山旅團ヲシテ二日漂陽ニ向ヒ前進セシムルノ部署ヲ爲ス

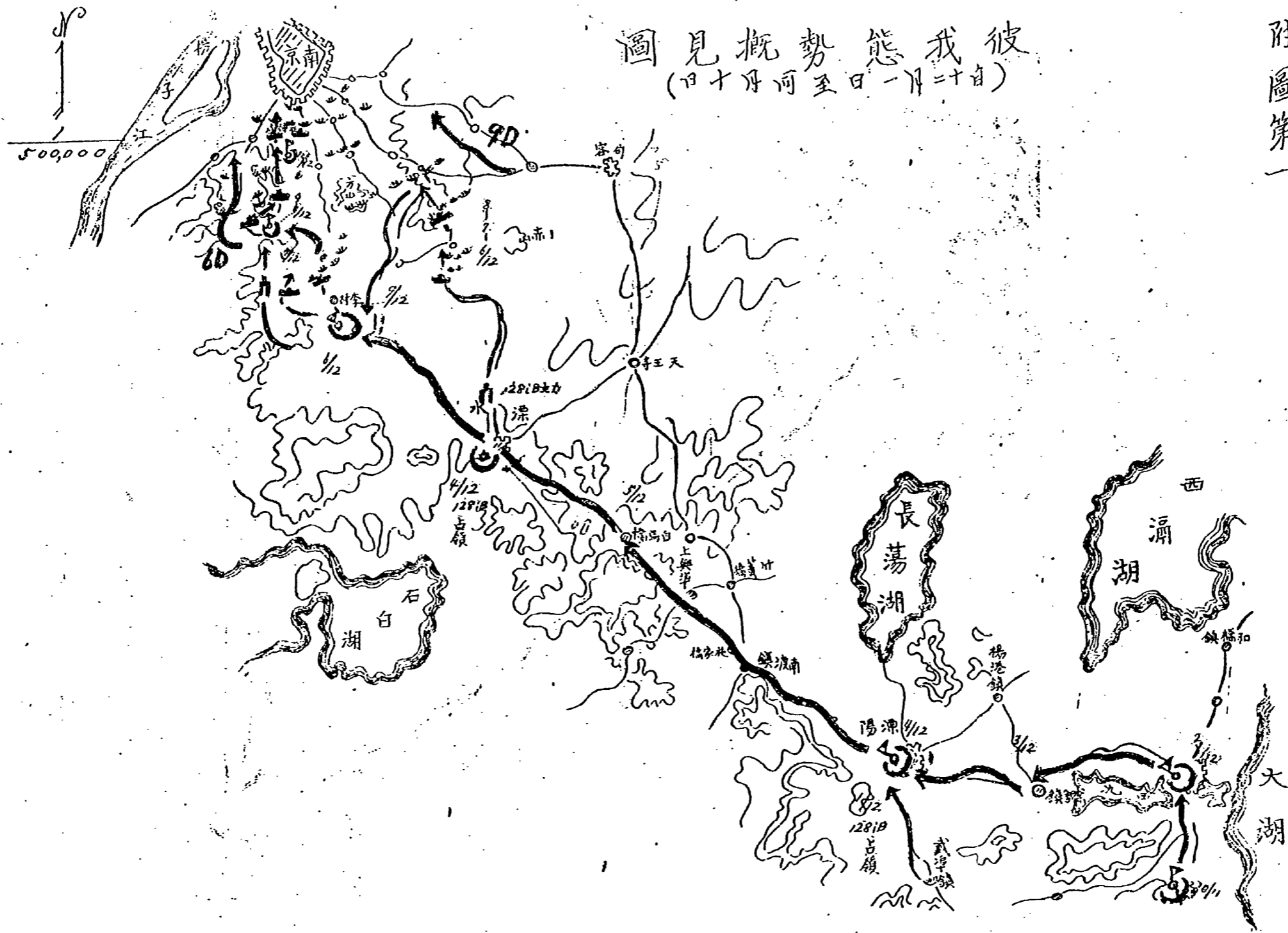
眞支隊ハ十二月三日午前十一時上興埠ニ又路ヲ通過西進  
 セリ  
 秋山旅團ヲ四日上興埠ニ向ヒ前進セシムル爲部署ニ処アリ  
 十二月四日午後一時<sup>眞支隊</sup>先遣隊ハ溧水ヲ完全ニ占領シ國崎  
 支隊ハ花古唐ノ敵陣地ヲ攻撃中ナリ  
 秋山旅團ハ五日歩兵一ヶ大隊ヲ以テ上興埠ト天王寺ト溧  
 水道ヲ溧水ニ向ヒ前進セシメ旅團主力ハ上興埠ト溧水道  
 ヲ溧水ニ向ヒ前進ス  
 十二月五日師團ハ神速ニ南京ヲ占領スル目的ヲ以テ溧水ヨ  
 リ秣陵間ニ向ヒ追撃中大日夜秣陵間南端及其ノ左右ニ  
 堅固ニ陣地ヲ占領セル敵アルヲ知り七日早朝師團主力ハ  
 秣陵間ニ向ヒ前進シ開始セリ  
 師團主力ニ在リシ秋山旅團ヲシテ敵ノ右側背ヲ攻撃セシ  
 ムル爲メ張山西方地區ニ轉進セシメ當面ノ敵ヲ捕捉殲滅  
 スルノ部署ヲ爲セリ  
 秋山旅團ノ第一線各隊ハ逐次抵抗スル敵ニ肉迫シ午後五  
 時頃之ヲ撃破セリ

師團ハ七日夜ニ入ルモ前面ノ敵ヲ追撃シテ高家庄附近ニ  
 遠シタル時左追撃隊ハ前方及西側方向ヨリ敵ノ急襲火ヲ  
 蒙リ揚山及斗山ノ線ニ敵陣地アルヲ知り左追撃隊ハ夜間  
 攻撃ヲ敢行シタルモ之ヲ抜クコト能ハス將軍山ヲ中心ト  
 スル敵ノ真面目ナル抵抗ナルコト判明シ速ニ之ヲ撃破シ  
 テ南京ニ進出スルニ決シハ日朝所要ノ部署ヲ爲セリ  
 諸隊ハ夜暗未知ノ戰場ニ進入シ地形ヲ十分認識シ得テ  
 ル爲メ遂ニ敵ノ射撃ニ牽制セラレ攻撃目標ヲ誤タルモ第  
 一線各隊ハ當面ノ敵ヲ逐次撃破シテ之ヲ壓迫シ同日夕刻  
 ニハ蔭樹村銀咸山並斗山ニ進出シ斗山ニ向ヒタル歩兵  
 第百ニ聯隊ハ直ニ其ノ兵カラ徹シテ灣里西北方地區ニ集  
 結セリ  
 之レヨリ先五日午後七時奧支隊ニ溧水一秣陵関一南京道  
 方面ヨリスル師團主力ノ攻撃ヲ容易ナラシムル目的ヲ以  
 テ速ニ南京ニ近ク地步ヲ確得シ當面ノ敵情地形ヲ搜索ス  
 ハシトノ命令ヲ與ヘタルモ暗號翻譯不能ノ爲メ傳ハラス  
 此ニ於テ師團長ハ六日宇垣參謀ヲシテ奧旅團ハ湖熟鎮ヲ

三、彼我状況概見圖別紙ノ如シ  
 經テ前進シ師團主力ノ攻撃ヲ容易ナラシムヘシノ命令ヲ  
 傳ヘシム而シテ師團主力ノ方面ニ招致セリ(要圖参照)  
 九日掃曉ヨリ秋山旅團ヲシテ將軍山方面ノ敵ヲ依然攻撃  
 セシメ新ニ追及スル野砲兵第百二十聯隊(大隊)欠ラ  
 以テ灣里北側ニ陣地ヲ占領シ之ニ協力セシム  
 之ヨリ先第六師團ノ一部ハ正午頃逐次戰場附近ニ到着シ  
 當師團ニ合シテ既ニ攻撃スル部隊アリ殊ニ第六師團ノ砲  
 兵ハ灣里附近ニ陣地ヲ占領シテ師團ノ戦斗ニ協力セリ  
 而師團ノ參謀長ハ直接會見作戰地境ヲ協議シ將軍山西端  
 固家村西方約五百米ノ無名部落ト中華門(南京南門)ノ  
 線ニ變更セリ  
 秋山旅團ハ九日未明ヨリ堅固ナル敵トシテ陣地ニ對シ一  
 斉ニ攻撃ヲ前進ヲ開始シ將兵ノ決死的肉迫攻撃ニヨリ同日  
 夕刻ニ將軍山南麓ニ進出シ十日未明ヨリ秋山旅團ハ直ニ決  
 シ部署セシカ夜ニ入り敵退却ノ徵アリ秋山旅團ハ直ニ將  
 軍山東側地區ヲ追撃前進シ師團主力ハ之ニ跟随シテ追撃  
 スルニ決シテ所署ノ部署ヲナセリ

彼我態勢概見圖  
(自十月一日至十一月二十日)

附圖第一



四、給養衛生ニ関スル事項

1. 給養ニ就テ

長興出發當初一部軍ノ補給ヲ得タレトモ数量僅少ニシテ  
南京ニ近ツクニ從ヒ丘陵原野地多ク住民地乏シク師團各  
部隊共ニ徵發ニ努メタルモ其ノ結果思ハシカラズ現地物  
資ニ依ル給養ハ漸ク困難トナリタルモ各部隊共概テ携行  
定量ニ準スル給養ヲ爲シ得タリ然レトモ馬匹ハ過勞ト飼  
料ノ不適當ナル爲憂慮スヘキ状態ニアリタリ

2. 主要ナル處置

- (1) 溧陽物資利用ノ爲獨立工兵第ニ大隊ノ機舟ヲ以テ部員  
ヲ先行セシメ同地ニ於ケル各部隊ノ物資ヲ統制利用シ
- 且同地ニ於テ乾パン百梱ノ補給ヲ行フ
- (2) 十一月八日湾里附近ニ於テ徵發ヲ實施シ師團通信隊衛  
生隊野戰病院等ニ補給セリ
- (3) 十日朱家樓子附近ニ野戰倉庫ヲ開設シ主トシテ追送品  
ヲ以テ糧秣及被服品(單靴、靴下)ノ補給ヲ實施ス

3. 衛生ニ就テ



(四) 衛生機関業務ノ概要

衛生隊ハ高家ヲ注ニ綸帶所ヲ開設第四野戰病院ト協力患  
 者ヲ収療シ次テ南京攻略ニ際シ丁家港ニ於テ第一野戰  
 病院ト協力患者ヲ収療ス此ノ間衛生隊ハ少尉以下四名  
 ノ犠牲者ヲ出ス  
 湖州ニ病院開設中ナリシ第一野戰病院ハ九日野戰豫備  
 病院第八班ト交代シ杭州攻略戰ニ参加ス入キ軍命令ニ  
 接シ待命ス、尚十二月三日長興ニ患者療養所ヲ開設セリ  
 十月ニ二十日以禾嘉興ニ病院開設中ナリシ第三野戰病  
 院ハ軍醫部長ノ指示ニヨリ野戰豫備病院兩班ニ引継  
 キテ了シ貨物自動車ヲ利用シ追及ニ追及ヲ重不十二日  
 十日景家庄附近ニ達シ同地ニ待命中第四野戰病ハ人員  
 材料ノ貧弱ナルニモ拘ラズ衛生隊ト協力シ高家庄及永慶  
 庵ニ病院ヲ開設セリ  
 一般衛生狀況  
 被服ノ汚染破損ノ度ハ益々甚シキモ洗濯モ着換ヘモ不  
 可能ノ狀況ナリ

糧食ハ依然現地物資ニ依レルモ南京城近キニ及ヒ物資  
ノ缺乏ハ次第ニ其ノ度ヲ増シ来レリ  
宿營給水前同ノ如シ  
ハ  
患者ノ状況

旬間平病新患總數三四九名内主要疾患ハ急性腸炎三〇  
名ヲ最多トシ、靴傷、腿鞘炎等行軍病ニ重キ傳染病ハ  
赤痢疑似症五名ナリ  
戦傷ハ四〇名ニシテ戦死ハ四名ナリ